

# 旭川医大病院ニュース

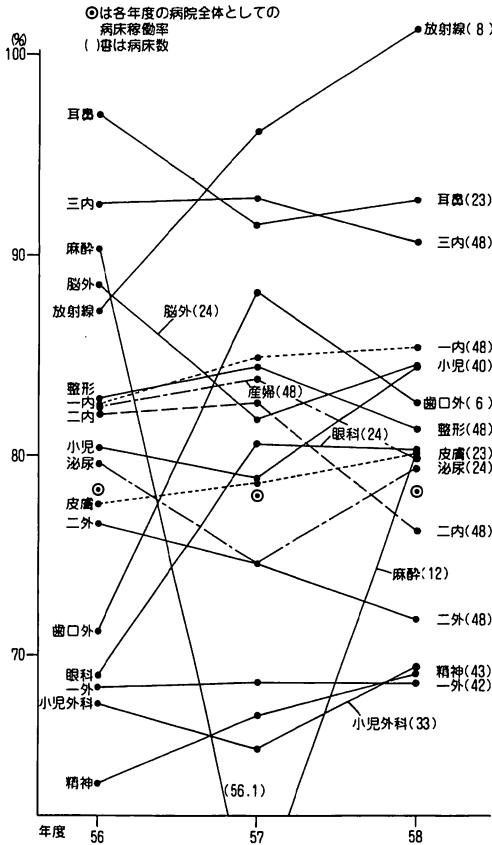
## 病床稼働率

院長 吉岡 一

大病院は卒前卒後の教育を目的として診療を行うのだから、経済とは関係なく理想的な診断治療を追求するのが本来の姿とお考えの方も多いであろう。確かにそのとおりではあるが、一方、大病院は国費で建設運営されている以上、効果的な運用が求められることもまた当然である。

昨年の本院の病床稼働率は七八・二%であった。全国平均は八一・五%だったので、努力の余地があるということ。これを文部省及び会計検査院から指摘された(なお、本年度の目標は八二・五%である)。七八%というと、十床のうち年間を通して患者さんが入院しているのは七・八床ということである。多くの方々は直観的に、そんな筈はない、と思われるかもしれない。どここの病

### 診療科別病床稼働率表 (56~58年度)



### 薬剤部 新薬紹介 (3) 塩酸ブプレノルフィン (レベタン)

本剤の作用機序は中枢神経のオピオイド受容体に結合し、痛覚伝導路を遮断することにより鎮痛作用を示すといわれており、鎮痛作用は血中濃度より、むしろ脳内濃度と相関した結果が得られている。また、鎮痛効果持続時間が長い理由はオピオイド受容体からの解離速度が遅いためと考えられている。筋肉内投与では投与後約15分間、静脈内投与ではすみやかに作用発現をするといわれており、作用持続時間は6〜8時間で

あり、ペンタゾシンより長いようである。動物で示された本剤の鎮痛作用はモルヒネ及びペンタゾシンの数倍から数百倍強く、その作用持続時間は有意に長くと報告されている。依存性形成作用はきわめて弱いとされているが、大量連用により薬物依存を生じることがあるので観察を十分行い、慎重に投与すべきである。呼吸抑制作用は動物においてモルヒネ及びペンタゾシンに比べ弱いと報告されており、臨床上その作用があらわれた場合、呼吸促進剤のドキサプラムが有効である。なお、レパロルファンなどの麻薬拮抗薬は無効で

ある。本剤は1ml中にブプレノルフィンとして2.0mgを含有し、鎮痛(術後・各種癌)を目的とする場合は通常成人で2.0〜3.0mgを筋肉内に注射、麻酔補助を目的とする場合は通常成人で2.0〜4.0mgを麻酔導入時に徐々に静脈内に注射する。なお症状、併用薬などに応じて適宜増減を行う。本剤は原則として他剤との混合注射は避けること。本剤は劇薬・習慣性医薬品・指定医薬品・要指示医薬品の指定をうけており、医療外使用を防止するため、保管管理には十分注意する必要がある。  
(DI室長 竹本 功)

### 検査部より (3)

#### 生化学検査室

血液、尿等の化学成分の定量を行っている検査室です。現在、四名のスタッフで検査されており、検査部の中では一番自動化機器の多い検査室で、時には工場ではないかと思うことがあります。

当検査室の一日の仕事始めは、検査終了時間、エアシューターの運転時間等の関係で、前日受付・検査された報告書の区分・配送から始まります。多い日で三五〇人、数千件の検査報告書の多いのに驚くのが常

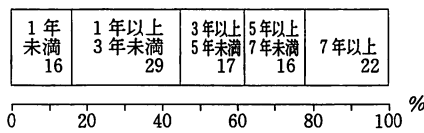
です。そして、その検査内容も、当検査室で実施されている項目、さらに、人員等の問題で外注検査に頼らざるをえない特殊検査等を含めると膨大なデータ量と思われれます。大学病院の持つ特殊性であると思われませんが、日々、この様な状況の中で、至急検査等の飛込み検査も処理しています。

膨大な検査データを前に常に思うことは、毎日の検査データが患者の治療に、どれほどフィードバックしているか、また患者に必要な検査であるか、が私達技師には、実感としてとらえる状態にない点に、何か一

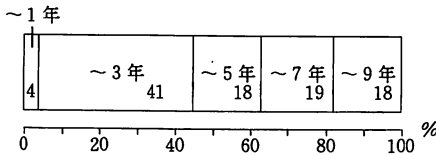
## 看護職員の状態について

4月に仲間入りした47名の新人(経験者15、新卒者32)も3カ月を経て、各職場にも慣れ、チームの看護力もいよいよ充実してこようという時に、もう退職の話題……これが看護部の悩みである。退職理由のトップは結婚のため(表1)、未婚女性が76%をしめる現るこうした問題は当分続くであろうし、又出産、育児休業等のため実働人数の減は避けられない。毎年17%前後の退職者を出しているが、開院9年目の現在、当院における在職年数を見ると(表2)、3年未満者が45%であり、全国病院調査の31.9%に比べ高率である。開院当

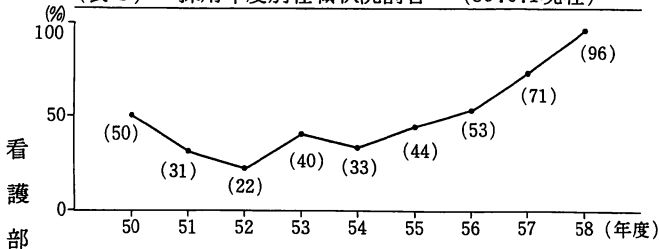
(表2) 旭川医大における在職年数別割合 (59.6.1現在)



(表3) 昭和58年度退職者の当院在職年数別割合



(表4) 採用年度別在職状況割合 (59.6.1現在)



(表1) 昭和56~58年度退職者の退職理由別割合

